

第二種免許の必要性

道路運送法に規定する旅客自動車運送事業の用に供される自動車の運転者に対し、以下の観点から、第二種免許取得を求めている。

- 一般的に営利を目的としており、営業効率を上げようとするなどのため、1日の走行距離や輸送人員が多くなること
- 乗客の指示による急な方向転換等への対応、乗客の動静確認及び安全確保等のため、通常より高度の運転技能や知識が必要
- 旅客自動車による事故は多くの人命を損ないかねないこと
→ **運転経験や取得要件について第一種免許よりも厳格な要件**

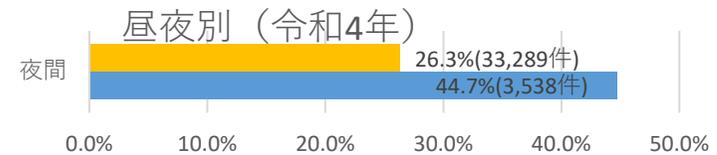
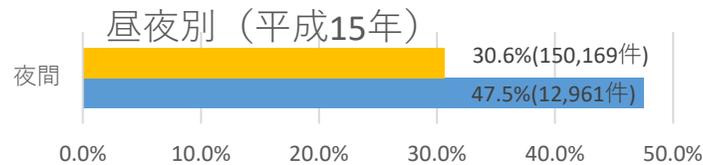
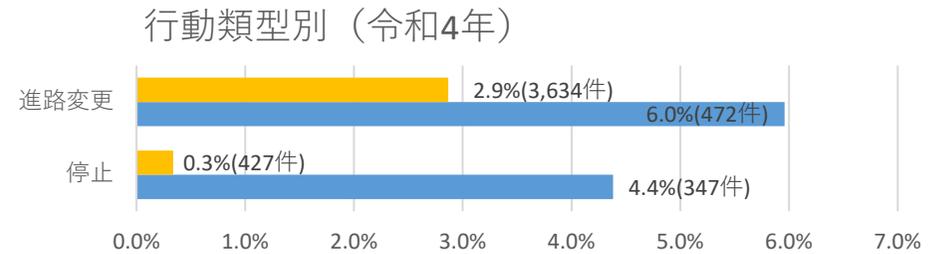
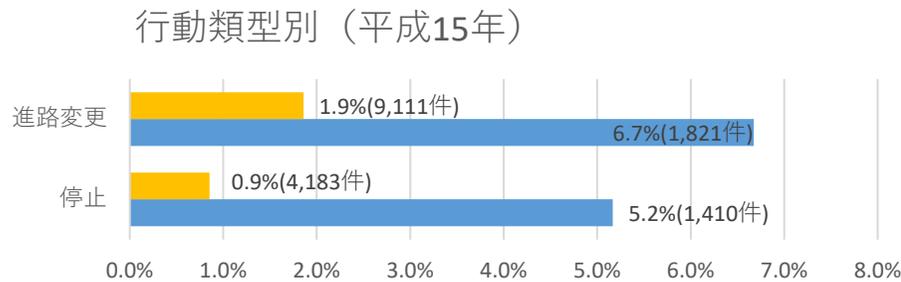
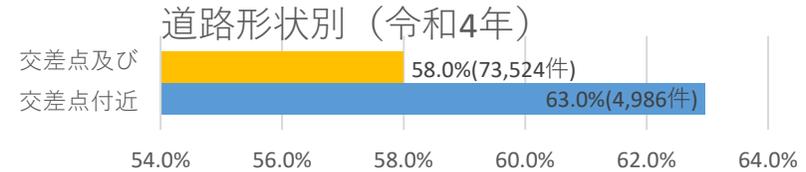
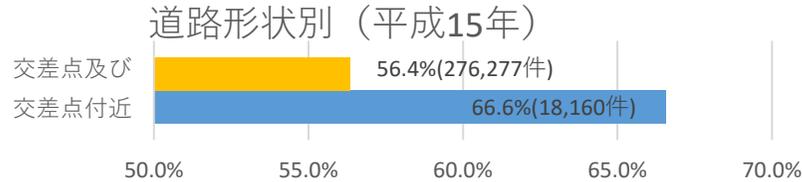
第二種免許取得に係る教習内容

- 上記を踏まえ、主に以下の項目を中心に履行する教習計画を各教習所で策定。

	学科教習	技能教習
第二種免許特有の項目	<ul style="list-style-type: none"> • 第二種免許の意義 • 旅客自動車に係る法令の知識 • 身体障害者等への対応 	<ul style="list-style-type: none"> • 鋭角コースの通過 • 転回 • 旅客輸送を想定した運転（路端からの発進・加速、車線変更、減速・停止等） • 先急ぎの危険を理解した運転 • 危険を予測した運転
第二種免許において重点を置いて実施する項目	<ul style="list-style-type: none"> • 悪条件下での運転 • 特徴的な事故と事故の悲惨さ • 応急救護処置 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転装置の取扱いと日常点検整備等 • 後退 • 急ブレーキ • 夜間の運転 • 悪条件下での運転 等

タクシーに係る交通事故の特徴

■ 自家用普通乗用車 ■ 事業用普通乗用車



自家用有償旅客運送の扱い

現行の道路運送法上、自家用有償旅客運送の用に供される自家用自動車の運転者に対しては、主に以下の観点から、第二種免許が必須とされていないところ。

- 収益を上げるために、長時間・長距離にわたり運行したり、多数を輸送したりするなどの効率性が求められるものではないこと
- 事前に運行区域又は路線を定める必要があり、乗客の指示による急な方向転換等への対応が生じにくいこと
- 運送の対象となる旅客が限定されており、不特定多数の利用者の利便及び輸送の安全を確保する必要のある旅客自動車運送事業とは性質が異なること